令和５年度研究成果概要一覧

◆教員名：鈴木建生

主要研究テーマ

①保育者養成課程における効果的なコーチングスキルの活用方法の探求

②ピアサポートの実践についての研究

研究成果の概要

①保育者養成課程における効果的なコーチングスキルの活用方法の探求

傾聴・質問・承認の三大スキルと問題解決プロセス「GROW モデル」の活用によるコーチングスキルの活用方法

②ピアサポートの実践についての研究

授業内におけるピアサポートの実践とその効果測定の研究

◆教員名：平松喜代江

主要研究テーマ

社会的養護下にある児童の進路実現と支援に関する研究

研究成果の概要

本研究では，児童養護施設在籍者の大学進学を可能にするためにはどのような非経済的な課題への対応が必要なのかを探るため，児童養護施設退所者の協力のもとで行った面接調査の結果から施設在籍者の大学進学上の課題を抽出した．その結果，施設職員や学校教師から適切な時期による支援や，身近な先輩たちの姿を進路モデルとして，様々な体験や支援によって大学進学の実現の可能を高められることが示された．

◆教員名：安藤恭子

主要研究テーマ

形や色を通して、造形に関わる乳幼児の情操を養い、想像力や表現力を豊かにすることのできる保育者としての能力を培うための教材の開発研究

研究成果の概要

自ら求め磨き合って高まる授業の創造ができるように、アクティブラーニングを効果的に取り入れたり、自作のイラスト入り資料を有効に使用したり、執筆した教科書を参考にしたりして教材研究の充実に努めた。身近な材料の教材化を図り、木の葉等自然物をふんだんに使用した教材や、空きペットボトル等人工物の更なる工作化を開発した。

共同制作を通して、新しい素材やテクニックにチャレンジさせたり、創造することの楽しさを実感させ、やがては保育者となる学生たち全員に、造形表現に関わる基礎基本を体得させると共に創造の喜びを実感させることができた。

◆教員名：山野栄子

主要研究テーマ

保育者の専門性と保育の質向上に関する研究

研究成果の概要

コロナ禍でエッセンシャルワーカーとして重要性が問われ、改めてケア労働としての保育者の専門性や倫理について考察をしている。特に保育者による虐待や不適切なかかわりが相次いで報道されている中、保育者のケア的態度やスキルを簡便に調べられる方法がないか検討し、試行的に尺度を作成し、公立に勤務する保育者に質問紙調査を行った。その結果を日本保育学会で「ケア論から見た保育の専門性（2）」について発表した。

◆教員名：桂山たかみ

主要研究テーマ

保育養成課程の学生に対して、音楽指導能力を培うための教材開発や授業研究

研究成果の概要

保育者養成校の音楽教員の立場から、音符ではなく絵の器楽合奏譜の創作を行っている。こどもが器楽合奏を楽しむ足がかりとしてとして、様々な打楽器の作曲をするなどの研究を進め、音楽に苦手意識を持つ保育者志望の学生や保育者に向けた楽譜を考案し、器楽合奏を楽しむ足掛かりを論じた。

◆教員名：田中裕子

主要研究テーマ

「教育における ICT 活用への期待と可能性」

研究成果の概要

各園に出向き実践データを収集し、三重県内保育施設 560 園に対し質問紙調査を行った。その結果 8 割以上が ICT 活用について興味があるが保育に活用していない現状が明らかになった。保育の魅力を学生に伝えつつ、ICT を幼児教育に責任をもって効果的に活用する道を探り、教育面での ICT 活用の可能性を研究している。これらの研究結果については、日本保育学会、情報教育技術国際会議で発表し、論文が教育システム情報学会論文集、電子情報通信学会信学技報、ユマニテク短期大学紀要等に掲載された。

◆教員名：小澤登生男

主要研究テーマ

3 歳児から 5 歳児の遊びについての研究　―遊びの姿からの考察―

研究成果の概要

本学幼児保育学科で学ぶ 2 年生の「幼児の人間関係」の授業においてアンケート調査を行い、それを基に 3 歳児以上の子どもたちの遊びの調査を行った。アンケートを通して連合遊び・協同遊びの姿についてどのような遊びがあったかを調べることができた。結果、3 歳児から 5 歳児へと年齢が上がるにつれての「連合遊び」・「協同遊び」の様子を窺い知ることができた。

この研究の成果をユマニテク短期大学紀要へ投稿した。

◆教員名：徳増全矢

主要研究テーマ

子どもたちの成長と地域社会・家庭・教育機関との関係性についての研究

研究成果の概要

子どもたちは周囲から様々な影響を受け、育っていく。そこに、地域・家庭・学校がそれぞれ関わりながら、子どもを育てていくことの重要性を研究している。子どもの成長は「非認知能力」の視点から、地域・家庭・学校に関しては、「フリースクール」や地域教育力としての民間団体の力、新たな教育機関の姿から示唆を得ている。令和 5 年度は、家庭教育支援チームの事業がどのように発展していくのかを研究し、保育者養成との親和性に関する現状と課題を明らかにした。論文はユマニテク短期大学紀要に掲載。

◆教員名：仲森みどり

主要研究テーマ

発達障害児の保護者への支援の在り方

研究成果の概要

発達障害がある子どもの家族は、様々な心理的な負担感や困難を抱えていることが指摘されている。特に母親は、子どもの乳幼児期に精神的に不安定になることがあり、その時期に最も支援が必要となると考える。そのため、母親への心理的・精神的サポートの重要性を明らかにすることを目的とした。母親が求めている支援とはどのようなことかということをインタビュー調査の結果を通し考察した。

◆教員名：大矢知佳

主要研究テーマ

小児の身体と運動機能の発育発達について

研究成果の概要

近年、子どもの体力・運動能力の低下が問題視され、コロナ禍の活動制限により、さらに深刻化している。身体動作は脳・神経系の働きが根幹となっており、生理学的な視点より、身体動作の発達を示していく必要がある。脳・神経機能を評価より、成人では、運動課題によって神経活動が異なることを示した。また、小児においても同様の結果を示し、運動の内容によって神経活動が異なり、同時に複数の課題を伴う運動において神経活動が活発化する傾向を示した。

◆教員名：中村真緒

主要研究テーマ

保育園の保育者と園児の園内における身体活動量の関係

研究成果の概要

本研究の目的は，園内活動時の保育者の身体活動量と園児の身体活動量（家庭での活動は除く）との関係性を見ることで，園児の身体活動量は保育者の影響を受けているかについて検討することとした．調査対象園は体育教育に特化したプログラムを設置していない三重県の私立保育園 4 園を対象とした．身体活動量および歩数の測定は，3 次元加速度計を内蔵した活動量計を用いた．調査の結果，保育者（保育園）間で身体活動量（歩数および低強度の活動時間数）に有意差が認められ，身体活動量の多かった保育者ほど，園児の歩数，中強度の活動時間，中強度の活動量，高強度の活動時間，高強度の活動量も多くなる傾向が見られた．園児の身体活動は，保育者の身体活動量と関係性が見られ，園児の身体活動量は保育者（の身体活動量）に影響を受けている可能性が示唆された．

ユマニテク短期大学

令和　5 年度　　研究概要報告書

令和 6 年 4 月 12 日

職名　教授
氏名　鈴木 建生

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	①保育者養成課程における効果的なコーチングスキルの活用方法の探求 ②ピアサポートの実践についての研究

研究成果の概要

①保育者における効果的なコーチングスキルの活用方法

短大学の学修の場においてアクティブ・ラーニングを開発するにあたって、ペアワーク、グループワークなどの場面を多用する。そのような場において、情報伝達の際に発信側の意図と受信側の解釈に相違があるミスコミュニケーションが発生したり、対話が曖昧なまま進められ、深い学びを引き起こせなかったりすることが観察される。本年度も「教育方法と技術」「教職概論」「キャリアデザインⅠ」の授業において、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業するために、コーチングスキルを活用した対話活動を実践した。具体的にはテキストとして「信頼関係を築くコーチングスキル養成講座」を用いながら、傾聴の基本から質問スキル、承認のスキルのポイントを確認しながらスキル修得に努めた。特に日常の生活の中で、学生同士のコーチングを通して、ピアサポートの実践を行った。活用方法の分析を行う予定である。「自律する子どもが育つことばがけ」としての基本スキルであるコーチングについて、対話の技法・聞くということ・傾聴・安全基地・受け止めて聞く・質問対話・私メッセージなどのキーワードを中心に「教育方法と技術」の授業においても活用できた。子どもに自己決定を促す 3 つの言葉として、① どうしたの何か困ったことはあるの?
子どもの置かれている状態を言語化する働き。メタ認知に必要な自分の内面に意識を向ける 訓練。子どもが何をしても頭ごなしに叱らないことが ポイントである。②「どうしたいの?これからどうしようと考えているの」。子どもの意志を確認する。自分の置かれた状態を解決するための方法を頭の中で考えるためのきっかけを作る。自己決定力、自発性の開発。③「何を手伝って欲しい?何かできることある?」問題解決の支援。親・教師から選択肢を与える形になることもある。どんな支援を受けるか、あるいは受けないかを判断するのは子ども自身である。自己決定の要素を大人の側がどれだけ意識できるかが重要。親・教師がサポートする意思を表明することは味方宣言でもある。様々な場面でこの 3 つの言葉掛けを大人が繰り返すことで子どもは自己決定をするしかない環境に置かれる。 これこそが真の厳しさ。自己決定の機会を持つことで自己肯定感が高まり、自ずと自信と主体性がついてくる。ポイントは大人が頭ごなしに叱らないこと。子ども自身が決めることが最も重要である。

②ピアサポートの実践についての研究

ピアサポートは、学生同士がお互いに支え合い、学び合うアプローチである。大学におけるピアサポート活動は、様々な課題を持つ学生を含む一般学生と共に授業内で実施された。担当科目である「教育方法と技術」において大学生におけるピアサポートの理論と実践方法について共有した。ピアサポートは、仲間同士が支え合い、学び合うアプローチである。大学生のピアサポート活動は、学生同士が協力し、相互の成長を促進することを目指している。実践方法としては授業中のペアワークにおいてピアサポーターを決めて相互の悩

みや問題を共有し、解決策を見つける場を提供した。初めのうちは 1～3 分程度の短時間でセッションを行った。徐々にセッションの時間を長くし、授業の 10 回目からは最長 15 分とした。それまでの傾聴のスキルに重点をおいたセッションから次第に質問のスキルである「確認のスキル」から問題解決のプロセスを構造化した「ＧＲＯＷモデル」の習得を目標にした。ピアサポート活動は、コミュニケーションスキルや問題解決スキルの向上を通じて行われるが、その基本的なスキルはコーチングの理論と方法によった。ピアサポーター同士のあたたかい環境が効果的であり、手順や内容が構造化された活動を通じて成果を上げることができる。

効果測定として、主に授業後のリフレクションシートの記述をもとに行った。ピアサポート活動に積極的な学生は、自己受容や貢献感が向上する語句が多く示された。支援を要する学生にもピアサポート活動が有効であり、自尊感情や貢献感が向上することが示された。

今後の課題としては、短期大学の２年間においてどのようなピアサポートの仕組みを構築するかである。ピアサポートを通して、どのような効果が実証されたかを測定するために、定評のある(株)リアセック社の「ＰＲＯＧ」(プログ)を用いた。これまでの効果測定が定性的なものであり、定量的数値的にジェネリックスキル・非認知能力の向上がどのように図られたかを検証していく。１年次と２年次の５月に「ＰＲＯＧ」を実施し、その変化を見ていく計画である。

※（　）に本数をご記入ください。

著書（０）学術論文（０）学会発表等（　０　）その他（　３　）

国際活動の有無（あり・(な)し）　社会的活動の有無（(あ)り・なし）

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新してくださいますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
2024/04/12	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご留意ください。

ユマニテク短期大学

令和　5　年度　　研究概要報告書

令和　6　　年　3　月　25　日

職名　教　授
氏名　平松　喜代江

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	社会的養護下にある児童の進路実現と支援に関する研究

研究成果の概要

１．学会発表

1)　平松喜代江，堅田明義[1]「児童養護施設在籍者の大学進学上の課題－修学支援新制度を中心に－」
日本社会福祉学会　第71回秋季大会　　令和５年10月　@ 武蔵野大学

2)　平松喜代江，蛯沢光[2]，梅谷聡子[3]「社会的養護における自立支援を考える～『自立』の理念と実践の体系化を目指して」日本子ども虐待防止学会　第29回学術集会滋賀大会　公募シンポジウム

２．論文（学会誌・紀要）

1)　平松喜代江「児童養護施設在籍者の大学進学上の課題－修学支援新制度を中心に－」
ユマニテク短期大学紀要 Vol.8、2024年3月

３．その他発表

1)　平松喜代江「親子で外遊びを楽しもう」雑誌きらきら,74，8，2023年5・6月

４．講座

1)　ユマニテク短期大学入学前講座グループワーク（人間関係）2023年12月

1　中部学院大学　特命教授
2　ひだまりの丘　理事長
3　花園大学　嘱託講師

※（　）に本数をご記入ください。
著書（　0　）学術論文（　1　）学会発表等（　2　）その他（　1　）
国際活動の有無（あり・なし）　社会的活動の有無（あり・なし）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績をresearchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等をresearchmapへ入力・更新してくださいますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
2024年 3月25日	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご留意ください

ユマニテク短期大学

令和５年度　　研究概要報告書

令和　6　年　2月 29　日

職名　教　授

氏名　安藤　恭子

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	形や色を通して、造形に関わる乳幼児の情操を養い、想像力や表現力を豊かにすることのできる保育者としての能力を培うための教材の開発研究

研究成果の概要

授業構成にてアクティブラーニングを効果的に取り入れ、自ら求め磨き合って高まる作品作りが学生の授業への充実感として現れた。

画材の組み合わせを工夫して学生の個に応じた指導の充実を図り成果があった。

年間を通して、諸題材では執筆している萌文書林より出版の「幼児造形の基礎」を教科書として採用し授業に生かすことができた。

学生一人一人が毎回の作品及び資料の数々を一冊のファイルにまとめることにより、学習実態の見える化を図った。その成果があり、個々の作品が向上した。

いつでも、学生のアイデアを取り入れた教材の開発ができるように、資料、素材等の収集に努め、教室の環境経営を充実させることができた。

本年度の成果を来年度に繋げていきたい。

※（　）に本数をご記入ください。

著書（　2　）学術論文（　0　）学会発表等（　0　）その他（　6　）

国際活動の有無（あり・(なし)）　社会的活動の有無（(あり)・なし）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新してくださいますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご留意ください。

ユマニテク短期大学

令和　5　年度　　研究概要報告書

令和　6年　3月　12日

職名　特任教授

氏名　　山野　栄子

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	・教材研究や授業内容の検討に関すること ・保育者の専門性と保育の質向上に関すること

研究成果の概要

①今年度もオンライン開催であったが、保育内容の検討や教材等について、日本保育学会・中部地区研究集会・保育政策検討委員会や全国保育士養成セミナー、発達心理学会研修会、東海保育保健研究会など様々な研修会に参加して、新しい情報を得たり、教材についても研鑽を積んだりした。その学びを授業や、各種研修会の講座などで活かすことができた。特に東海保育保健研究会が本学で開催され、教員や学生、また地域の保育者の方々にも多数参加いただけ、広く共に学ぶ機会になった

②昨年に続き、「エッセンシャル・ワーク」として注目され重要性が増しているケア労働としての保育職の専門性や倫理について考察した。昨今ケア労働者による虐待や不適切なかかわりのニュースが相次いでいる中で、保育者の有するケア的態度やスキルをより簡便に調べられる尺度がないか試行的に尺度を作成し、公立に勤務する保育者を対象に質問紙調査をした結果をまとめた。その結果を日本保育学会で「ケア論から見た保育の専門性（2）」と題して発表した（共同研究者　華頂短期大学・渋谷郁子、ユマニテク短期大学非常勤・小島佳子）

③その他、三重県保育総合研修会や東海北陸保育研究大会の分科会で助言者を務め、現場の教育・保育の資質向上に研究成果や学びを活かした。また、地域の家庭教育学級講座、孫育て講座、幼稚園の保護者対象講演会、ファミリーサポート養成講座などで講師を務めたり、子育て支援センターでの育児相談をしたりして地域貢献にも役立てた

※（　）に本数をご記入ください。

著書（　　）学術論文（　　）学会発表等（　1　）その他（　20　）

国際活動の有無（あり・(なし)）　社会的活動の有無（(あり)・なし）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績をresearchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等をresearchmapへ入力・更新してくださいますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご留意ください。

ユマニテク短期大学

令和５年度　　研究概要報告書

令和　6　　年　3　月　28　日

職名　准　教　授

氏名　桂山　たかみ

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	保育養成課程の学生に対して、音楽指導能力を培うための教材開発や授業研究

研究成果の概要

1.　講座・演奏

・四日市市こども芸術体験事業（講師・マリンバ演奏）2024 年 3 月

・四日市市民大学講座（講師・マリンバ演奏）2023 年 9 月

・四日市市民間文化施設活用事業（マリンバ演奏）2024 年 3 月

・四日市市立常盤中学校職業ガイダンス（講師）2023 年 11 月

・高大連携事業「音楽表現講習」2023 年 11 月

・ユマニテク短期大学入学前講座（ピアノ入門）2022 年 11 月、2023 年 2 月

四日市市主催による、こども芸術体験事業の一環として、児童・生徒の身近な場で優れた生の演奏や姿に触れるという四日市市の音楽文化の振興と文化の担い手の育成する事を目的とした学校訪問事業に貢献した。

保育者養成校の音楽教員の立場から、音符ではなく絵の器楽合奏譜の創作を行っている。こどもが器楽合奏を楽しむ足がかりとしてとして、様々な打楽器の作曲をするなどの研究を進め、音楽に苦手意識を持つ保育者志望の学生や保育者に向けた楽譜を考案し、器楽合奏を楽しむ足掛かりを論じた。

※（　）に本数をご記入ください。

著書（　0　）学術論文（　2　）学会発表等（　0　）その他（　8　）

国際活動の有無（あり・(なし)）　社会的活動の有無（あり・(なし)）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新してくださいますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
3/30	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご留意ください。

ユマニテク短期大学

令和　５年度　　研究概要報告書

令和　６年　３月　２８日

職名　　准教授

氏名　　田中　裕子

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	「教育における ICT 活用への期待と可能性」

研究成果の概要

本年度は、①「電子紙芝居とのシナジー効果で完成を紡ぐ応答的思考型読み聞かせセンシング教材の開発」②「サウンド×ICT のコラボレーションから幼児の感性を育む応答型デジタル壁面の開発」の２つの研究を行った。①は２年目で各園に出向き実践データを収集し、②は初年度で三重県内の保育施設 560 園に対し質問紙調査を行った。その結果８割以上が ICT 活用について興味があるが、保育に活用することができていない現状が明らかになった。ICT 教育を幼児教育に責任をもって効果的に活用する道を開いている。これらの研究結果については、日本保育学会第７６回大会、第 12 回情報教育技術国際会議で発表し、論文が教育システム情報学会論文集、電子情報通信学会信学技報、ユマニテク短期大学紀要等に掲載された。

※（ ）に本数をご記入ください。

著書（　１　）学術論文（　３　）学会発表等（　２　）その他（　４　）

国際活動の有無（あり・なし）　社会的活動の有無（あり・なし）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新してくださいますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご留意ください

ユマニテク短期大学

令和５年度　　研究概要報告書

令和　６　年　３　月　５　日

職名　　講師

氏名　　小澤　登生男

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	3 歳児から 5 歳児の遊びについての研究 ―遊びの姿からの考察―

研究成果の概要

本学幼児保育学科で学ぶ 2 年生の「幼児の人間関係」の授業においてアンケート調査を行い、それを基に 3 歳児以上の子どもたちの遊びの調査を行った。アンケートを通して連合遊び・協同遊びの姿についてどのような遊びがあったかを調べることができた。 結果、3 歳児から 5 歳児へと年齢が上がるにつれての「連合遊び」・「協同遊び」の様子を窺い知ることができた。

この研究の成果をユマニテク短期大学紀要へ投稿した。

※（　）に本数をご記入ください。

著書（　　）学術論文（ 1 ）学会発表等（　　）その他（ 3 ）

国際活動の有無（なし）　社会的活動の有無（なし）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新してくださいますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
3 月 5 日	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご留意ください。

ユマニテク短期大学

令和　5　年度　　研究概要報告書

令和　6年　3月２７日

職名　講　師

氏名　徳増　全矢

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	①幼児期における非認知能力の育成に関する研究 ②子育てと社会教育力の関係性に関する研究 ③ネイチャーゲームを用いた環境学習に関する研究 ④ピア・サポートを用いた学習環境構築に関する研究

研究成果の概要

①非認知能力に関する文献研究を進めた。得られた見地をもとに、子育てファミリー応援フリーマガジン「きらきら」に非認知能力に関するコラムを投稿した。さらなる研鑽が必要であり、今後も見地を深める。

②子育てと社会教育力をつなぐものとして、文科省とこども家庭庁が推進する「家庭教育支援チーム」の可能性を分析、保育者養成校がどのように参画できるかを研究しユマニテク短期大学紀要に寄稿した。子どもの多様な学びを育む会主催の「子どもの多様な学びフェス」でステージ運営を行った。その中で討論会なども実施したが、学校以外の学びの場の必要性と、その教育の質保証が課題だと問題意識を新たにした。

③浜松市浜北区の植木屋伸松園と共同で、子どもの遊び場事業として「植木屋の農場開放 DAY」を実施。内容は自然を活用した遊び体験を行った。年４回（4/15、6/25、10/15、11/19）で参加者各回25名程度。三重県シェアリングネイチャー協会主催の「ネイチャークラフト体験」にスタッフ参加。対象は亀山市立野登小学校１・２年生18名。三重県主催の「スズカト（三重県立鈴鹿青少年の森）」リニューアルイベントにて、ネイチャーゲームブースにスタッフ参加。参加者は幼児から大人まで24名。コロナの影響が強く残る中で、自然体験活動の大切さを改めて感じた。今後は、家庭での自然の関わり方などに研究を発展できると感じた。

④ピアサポートの実践用ビデオを、ピサポート学会静岡支部の山口先生と共同で制作。学会員が活動を計画・振り返りするための指標となるようにした。今後は、この動画等も活用して学生指導に生かしたい。

※（　）に本数をご記入ください。

著書（　　）学術論文（ １ ）学会発表等（　　）その他（ ３ ）

国際活動の有無（あり・[なし]）　社会的活動の有無（[あり]・なし）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新してくださいますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご留意ください。

ユマニテク短期大学

令和　5　年度　研究概要報告書

令和　　6　年　3　月　7　日

職名　講　師

氏名　仲森　みどり

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	発達障害児の保護者への支援の在り方

研究成果の概要

1. 論文

①「発達障害児の母親の揺れ動く心情について―乳幼児期の子育てに焦点を当てて―」

ユマニテク短期大学紀要第7号　2024年3月

発達障害児の家族は、様々な心理的な負担感や困難を抱えていることが指摘されている。本稿では、発達障害児の母親を対象に乳幼児期の子どもの様子や子育ての気持ちについてインタビュー調査を行い、乳幼児期の心理的・精神的サポートの重要性を明らかにすることを目的とした。

②「発達障害児の保護者の子育ての気持ちと支援―母親のインタビュー調査を通して―」

高田短期大学紀要第 42 号 2024 年 3 月

発達障害児の家族は、様々な心理的な負担感や困難を抱えていることが指摘されている。特に母親は、子どもの乳幼児期に精神的に不安定になることがあり、その時期に最も支援が必要となると考える。そのため、保護者が求めている支援とはどのようなことかということをインタビュー調査の結果を通し考察した。

2.　講座

令和 5 年度児童館及び学童保育所職員向け合同講習会に係る講師（川越町役場）

テーマ「特性のある子どもとのかかわりや支援について」

※（　）に本数をご記入ください。

著書（　　）学術論文（　2　）学会発表等（　　）その他（　4　）

国際活動の有無（あり・(なし)）　社会的活動の有無（(あり)・なし）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新してくださいますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご留意ください。

ユマニテク短期大学

令和５年度　　研究概要報告書

令和６年３月 18 日

職名　助教

氏名　大矢　知佳

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	子どもの身体・運動機能の発育発達について

研究成果の概要

2023 年 4 月　健康と運動の理論と実践　第 4 章 pp.37-48, 杏林書院

第 4 章生活習慣病とその予防の章を執筆した。生活習慣病は糖尿病や動脈硬化を引き起こす要因の一つとされる。生活習慣病の予防は内科的疾患のリスクを下げる。身体活動量が低下し、体脂肪特に内臓脂肪の増加はこのリスクを高くする。中等度の運動を連続して行う有酸素運動が予防に効果的であり、継続して行うことが重要である。運動を習慣化し、定期的に運動を行えるよう自身で組み立てていくことで健康の維持につながる。

編著　頼住一昭

2023 年 5 月 Journal of Physical Education and Sports, 23(5), 1287-1296. 掲載

運動機能を機能的に評価する方法として脳・神経系を評価するコヒーレンス法（CMC・IMC）を用いられる可能性についてまとめた。CMC とパフォーマンスは関連しており、CMC が高いほど、パフォーマンスや加齢性変化が良好であった。IMC は CMC と同様の結果を示し、加齢とともに減少し、発育とともに増加する傾向を示した。IMC が神経機能の評価に使用できる可能性があり、シンプルで汎用性の高い身体運動評価法となり得る可能性を示した。

Chika Oya, Erina Muramatsu, Keisuke Teramoto

2023 年 7 月 International Journal of School Health, 10(3), 109-118. 掲載

エコー強度における定量分析から筋内の局所脂肪蓄積量を性・体型別に比較した。3 から 6 歳の 267 名（男児 145 名，女児 122 名）を対象とし、パーセンタイルを用いて体型比較した結果、過体重群は痩せ群・普通群と比較してエコー強度が高く、骨格筋内の脂肪組織蓄積が多いことを示した。これは肥満の程度によって骨格筋内の脂肪蓄積に差があり、体脂肪が過剰に蓄積されると骨格筋内の脂肪増加にもつながる可能性を示唆した。

Chika Oya, Keisuke Teramoto, Erina Muramatsu

2023 年 3 月　日本健康教育学会 投稿中

ヒトの身体を動かす根幹は脳・神経系の働きによるものである．筋電図間コヒーレンス法（IMC）を用い，

歩行運動の運動課題別による脳・神経系の働きの違いを明らかにした．対象者は健常成人 10 名（女性 10 名，年齢 19-35 歳）とし，運動課題は，通常歩行として 20m 間の往復歩行，標的課題歩行として通常歩行と同様のコースに 3m 毎の線を設定し，線を踏む課題を伴う歩行を行った．筋電図は前脛骨筋近位部（pTA），前脛骨筋遠位部（dTA），内側腓腹筋（MG），外側腓腹筋（LG）の 4 か所に貼付し，筋活動を記録し，コヒーレンス解析により筋間・筋内コヒーレンス値を算出した．pTA-dTA 間は通常歩行と標的課題歩行における課題間の差は見られなかった（$t(9)=0.479$，$P=0.643$，$d=0.090$）．一方，MG-LG 間では，統計的には見られなかったものの標的課題歩行のコヒーレンスの方が高値を示す傾向を示した（$(t(8)=-2.185$，$P=0.060$，$d=-0.404)$．このことから，単純な歩行動作よりも視覚的な課題を伴う標的歩行動作時に神経駆動が強くなる可能性を示し，視覚フィードバックを伴うと神経活動が活発化傾向となることが明らかとなった．

大矢知佳，村松愛梨奈，寺本圭輔

※（ ）に本数をご記入ください。

著書（1）学術論文（3）学会発表等（　　）その他（　　）

国際活動の有無（あり・[なし]）　社会的活動の有無（あり・[なし]）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新してくださいますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
2024 年 3 月	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご留意ください。

ユマニテク短期大学

令和５年度　　研究概要報告書

令和６年３月 22 日

職名　助教
氏名　中村　真緒

下記の通り研究成果の概要を報告いたします.

主要研究テーマ	① 保育園の保育者と園児の園内における身体活動量の関係 ② 身体表現に対する意識の変化－領域表現の授業実践から―

研究成果の概要

① 中村真緒，松坂果歩(鈴鹿市立明正小学校)，片山靖富(皇學館大学教育学部)

「保育園の保育者と園児の園内における身体活動量の関係」『皇學館大学教育学部学術研究論集』皇學館大学，第５号（通巻 15 号），2024 年３月.

本研究の目的は，園内活動時の保育者の身体活動量と園児の身体活動量（家庭での活動は除く）との関係性を見ることで，園児の身体活動量は保育者の影響を受けているかについて検討することとした．調査対象園は体育教育に特化したプログラムを設置していない三重県の私立保育園４園を対象とした．年長クラスの担任の保育者９名（A 園２名，B 園１名，C 園１名，D 園５名，すべて女性）とその年長クラスの園児 67 名（A 園 17 名，B 園 16 名，C 園 12 名，D 園 22 名）を対象とした．身体活動量および歩数の測定は，３次元加速度計を内蔵した活動量計（HJA-750C，OMRON 社）を用いた．測定・測定日は運動会など特別な行事のない一般的な保育活動時の平日５日間とし，分析対象とした時間は，園児全員が揃う９時から 16 時とした．調査の結果，保育者（保育園）間で身体活動量（歩数および低強度の活動時間数）に有意差が認められ，身体活動量の多かった保育者ほど，園児の歩数，中強度の活動時間，中強度の活動量，高強度の活動時間，高強度の活動量も多くなる傾向が見られた（歩数，r=0.838，P=0.162；中強度の活動時間，r=0.660，P=0.340；中強度の活動量，r=0.705，P=0.295；高強度の活動時間，r=0.646，P=0.354；高強度の活動量，r=0.889，P=0.111）．園児の身体活動は，保育者の身体活動量と関係性が見られ，園児の身体活動量は保育者（の身体活動量）に影響を受けている可能性が示唆された．ただし，活発な園児であったがために，保育者の活動量が増加したことも考えられ，園児の身体活動量が保育者の身体活動量に影響を受けているか，その因果関係を明らかにするためには，より詳細な調査を（縦断的な観察や介入研究）が必要である．また，親やそれ以外の影響力と保育者の影響力の違いについては，本研究の結果からは明らかにできず，これらを明らかにするためには更なる研究が必要である．

② 「身体表現に対する意識の変化―領域表現の授業実践から―」『ユマニテク短期大学紀要』ユマニテク短期大学，第７号，2024 年３月.

幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示される領域「表現」は，幼児にとって豊かな感性を育むために非常に重要な領域の１つと考える．身体表現では，保育施設などに就職した際，保育教諭としてお遊戯会，運動会などで創作活動（ダンス）を保育者主体で行うこととなる．し

かし，現代の保育学生は運動の経験も乏しく表現についても苦手意識を持つ者も少なくない．この点について，保育者養成校としては解決策を検討する必要があるといえる．本稿は，「表現指導法」の授業内容を対象とし，学生が身体表現に対してどのような意識を持ったかに焦点をあて，アンケートによる調査を実施し考察した．その結果，多くの学生が活動に対してポジティブな印象がみられたが，苦手意識が改善されない学生もみられ課題が残った．今後は担当教員の専門性の向上や，身体表現領域の内容充実などカリキュラムの検討が必要と示唆された．

学術論文の執筆の他，児童厚生員研修では「表現活動」の講師として研修会を行った．

※（ ）に本数をご記入ください．

著書（　）学術論文（２）学会発表等（　）その他（１）

国際活動の有無（あり・[なし]）　社会的活動の有無（あり・[なし]）

※概要を記載し，必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し，補足すること．

※共同研究を行っている場合は，共同研究者氏名・所属も記入し，下線を引くこと．

更新日	本学の専任教員は，研究業績を researchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています．今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新してくださいますようお願い致します．左記に更新日をご記入ください．
3 月 22 日	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので，秘匿性のある情報（研究アイデア，知財情報，個人情報）の記載は行わないようご留意ください．